

吉野復興大臣宮城県訪問ぶら下がり会見録  
(平成29年6月6日(火)17:20～17:30於) 仙台国際センター展示棟)

1. 発言要旨

こんにちは。今日は仙台市を訪問させていただきまして、まず、「みやぎ連携復興センター」を視察させていただきました。

ここは被災者を支援する人材の育成、また、事例共有をして、横展開を図っていかうということでございます。

災害公営住宅が今つくられておりますけど、そこで自治会をつくるお手伝いをしたり、コミュニティづくりに努力をしている「れんぷく」でございます。福島県からの被災者、避難者への相談支援をしたり、交流会をやったり、いろいろ支援をしております。

私は支援を求める人がいれば、最後の1人まで支援をするという覚悟の下で復興行政やっているわけでありますので、復興庁としてもこれらの活動が継続的にこれからも行われるように、知恵を出していきたいというふうに思っております。

そして、この「東北復興水産加工品展示商談会」は、素晴らしいです。青森から茨城まで114社が一堂に会して展示をして、そして、商談をしているという、正に販路回復、これは私の大きな大きな仕事でございます。

それを企画し、また、今回で3回目になりますけれども、年を追うごとに反省も踏まえてより素晴らしい商談会、展示会になっているのかなと思います。

私が見て、説明を聞いてびっくりしたのは、バイヤーの目線に立っているということなんです。バイヤーは何を求めてきているのか。一番低価格の品物、若しくはオンリーワンの商品、その店で一番の自慢する商品等々、その分野別に分けてきちんとバイヤーの目線で展示会を開いているということです。そのバイヤーが求めているものは、展示場に行けばストレートに自分の求めている商品と出合うことができるという、本当に素晴らしいことでございます。

東北の水産品、販路拡大のためにも、これからこの事業を支援してまいりたいと、このように考えているところです。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 今日、水産加工品の商談会を視察されましたが、風評被害については、震災から6年以上経ちましたけれども、払拭されているとお考えでしょうか。その点どうでしょうか。

(答) 改正福島特措法においてでも、風評被害対策ということで、予算47億円、農林水産業の関係で予算を取らせていただきました。

生産の段階、流通の段階、販売の段階、それぞれの段階で実地調査に入って、そして、改善できるところは改善していくと、そういう事業が、今年から、昨日辺りから始まっておりますので、そういうのも含めて風評被害対策にきちんと取り組んでいきたいと思っております。

やっぱり一番はリスクコミュニケーションでありまして、ここも自民党の中で根本元大臣を座長に、風評払拭・リスク強化WGというワーキンググループ立ち上がったところですので、我々の予算の使い方、また、党としてのリスクコミュニケーションの推移を一緒になって見ながら、風評被害対策に取り組んでいきたいと思っております。

(問) 対策もあると思うんですが、現段階で全国の消費者はもう東北の水産物について安心して食べていらっしゃると思うんですが、風評被害が現段階であるのかなんかということについては、どういうふうにお考えでしょうか。

(答) 東北の水産物は、いわゆる放射能の問題はもう余りないと思っております。今、宮城県の水産物は韓国が輸入禁止していますので、放射能の問題があるんですけども、それは全部科学的には大丈夫だということが分かっていますので、それよりもやっぱり被災を受けた工場を立ち直るまで、かなりの時間を要しました。スーパーの棚がほかの人の商品に変わっちゃったんです。この棚をいかに取り戻すか、これがやっぱり勝負だと思いますので、そういう意味でこのような展示会というのは、とても効果のある事業だというふうには考えています。

(問) 今、大臣のお話でもありましたが、宮城県の場合、ホヤが韓国の禁輸が解けないために、2年連続で廃棄するような事態になっているんですね。水産業界の関係者からは、早く禁輸を解くように国としても動いてほしいという声があるんですが、それについてはどういうふうにお考えでしょうか。

(答) 橋副大臣が各大使館に出向いて、きちんと禁止をしているところは科学的なデータを示して、大体一回り、橋副大臣が汗をかいておりました。

でも、まだ81か国のうち23か国が解除したんですけど、まだまだ解除していない国がたくさんありますので、外交的にも我々努力をしていきますし、ただ、ホヤの場合は私、余り今まで食べたことないんです。この間、食べたらいいんです。韓国の輸出も大事ですけど、あんなにおいしいものなら、日本中、私は実は食べてなくて分からなかったんです。食べてみたら物すごくおいしいんです。ですから、日本人にまずホヤのおいしさを知らしめるの方が、ホヤの販売回復には早いのかな。私自身が食べてみてそう思ったものですから、何も輸出する必要ないんじゃないの

かなと思うくらいであります。

復興庁でも、ホヤ料理、来週辺りに食堂で出すことになりました。楽しみにしています。来週、試食会を開く予定です。

(問) 先日、大臣、東京都知事の小池さんのところを訪れて、被災地で聖火リレーをやるようにと申し入れられました。その後、何か進展があったのかということについてお尋ねしたいのが一つと、改めて「復興五輪」というものに対して、大臣はどのようなオリンピックにしたいとお考えなのか伺います。

(答) まずは、これだけ被災を受けた地域ですから、ここまで復興したんだという復興の姿を「復興五輪」を通じて、全世界の方々から支援を受けたんです、私たちは。そのお返しという意味でも、これだけ復興したんだという姿を、「復興五輪」という形で見ていただきたいと思います。

宮城県ではサッカー、そして、福島県では野球・ソフト。あとはやっぱり聖火リレーです。

この間、「あまちゃん」ののんさんが復興庁に来てくれました。共創力で進む東北プロジェクトの応援キャラクターというような形でTシャツ着て、東北頑張れという形で来てくれました。私、言ったんです。「のんさんを例えば、久慈市の聖火ランナーに登用するように推薦しますから」と言ったら、大喜びでした。

この間、久慈市長のところを訪問したときに今のお話をして、是非聖火ランナーにのんさんを推薦するように、私の方からもお願いをしたところです。

(問) 先日、オリンピックのその会場について、ほぼ決着をみたような形になりましたけれども、被災地宮城、福島でやる場合に、両知事とも国の支援があってもいいのではないかというお話もありましたけれども、復興大臣としてオリンピックをやる会場の自治体に対して何か支援があるべきだというふうにお考えなのか、どのような支援ができるのではないかというふうなお考えはございますか。

(答) 「復興五輪」が私にとって、復興庁にとっての一番のテーマですので、費用の問題はこれは国、県、東京都の間できちんと基本合意はできたと思いますので、あとはいかに復興した姿を全世界の方々に見てもらうためにはどうすればいいのかとか、あと、メダリストにオリーブの冠、これ、石巻でつくっていると思いますが、この冠も使ってくださいというふうに、小池知事をお願いしたところなので、そういうところが復興庁の仕事だというふうに思っています。

(以 上)